

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
こども療育センターきりとと「わくわく」		令和 8 年 3 月 31 日			
	チェック項目	はい		工夫している点	課題や改善すべき点
		はい	いいえ		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	1	外活動を取り入れながら活動をしています。	法人内のスペースを活用しながら、お子さんの活動場所を確保していきます。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		基準の職員数のみだったが、グループに分かれて活動しています。	基準の職員数のみだったため、可能であれば職員数を増やしていくことを検討します。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		一部段差がある場所では、職員が事前に気づきの声かけや配慮をしています。	一部段差があります。歩行の不安定なお子さんには職員が側で配慮することを継続して行っています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		玩具の消毒や加湿器の設置、トイレに手すりを設置などを行っています。畳を引くことでお子さんたちが寝転ぶなどくつろいでいる様子が伺えます。	今後も引き続き環境を整えてまいります。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		お子さんの様子にあわせて個室を使用できるようにしています。	お子さんの様子に合わせて部屋の使用をしていきます。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		業務日誌を活用し、各職員が振り返りをおこなっています。また、会議等で業務改善について話し合っています。	今後も振り返りをおこないながら職員間で話し合いをおこなっていきます。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		評価表の結果を受け、職員間で改善について話し合いをおこなっています。	保護者のご意見を真摯に受け止め、改善に取り組んでまいります
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		意見はどの都度話し合いをおこない改善に向けて取り組んでいます。施設独自の職員自己評価表を年1回行い振り返りを行っています。	今後も振り返りをおこないながら業務改善に取り組んでまいります。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4		第三者委員や実習生の意見を受け、業務改善につなげています。	今後も外部の方の意見を伺いながら業務改善に取り組んでまいります。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	4		法人主催のきりととセミナーやサービス向上委員会主催の勉強会、または外部の研修会に参加しています。	今後もできる限りの研修の機会を設けてまいります。
適切な支援の	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		専門職の意見も伺いながら支援プログラムを作成し公表しています。	今後もお子さんにとって必要なプログラムを変更していきます。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		利用する前に保護者からお子さんの様子を聞き取り、個別支援計画を作成しています。	お子さんの様子をできるだけ丁寧に保護者に聞き取り、個別支援計画を作成していきます。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		お子さんの支援にあたる職員間で個別支援計画について意見を聞き、情報共有をしています。	日々の活動の振り返りや毎月の会議の中で意見交換をし共有を深めています。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		個別支援計画に基づき、長期・短期目標を設定し取り組んだ結果を毎月の会議で情報共有しています。	個別支援計画に沿って職員間で丁寧に実施し、振り返りもおこなっていきます。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		個別記録にお子さんの様子を記録し、支援を行っています。また、月1回の様子をまとめています。	個別記録の記録方法を改善しながら今後も取り組んでまいります。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		個別支援計画には、おこさんご本人だけでなくご家族を含めて作成しています。	お子さんとご家族だけでなく、周りの関係する機関も含めて今後は作成していきます。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		毎日の活動計画を前日に話し合い、様々な意見を出し合って作成しています。	お子さんの変化に合わせて活動計画も日々変更していくように取り組んでいきます。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		活動内容が固定しないよう工夫しています。お子さんの興味や理解に合わせて活動を提供しています。	お子さんの興味ある活動に固定しないようにさまざまな活動を取り入れていきます。

提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	お子さんのその日の様子にあわせて活動内容は変更します。興味が出てきた場合は同じ活動をする場合があります。	今後もお子さんの様子や興味に合わせて活動を行っていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	前日に作成した活動計画を基に、当日の打ち合わせをおこない、活動内容や担当職員の動きや流れを共有し、連携しながら行っています。	当日のお子さんの利用状況に合わせて打ち合わせをおこなっていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	お子さんの帰宅後に個別記録や活動の振り返りお子さんの様子について話し合っています。	当日の振り返りを丁寧におこない、次の日の活動を確認しながら決めていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	日々個別記録を記入し、お子さんの支援にあたっては、改善が必要な場合は、記録を見直し改善に努めています。	今後もお子さんに合わせた支援につながるように振り返りをし改善に努めています。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	年2回モニタリングをおこない、保護者と支援内容について確認し、支援計画の見直しをしています。モニタリング以外に日々保護者とお子さんのことについて直接又は連絡帳や電話等で共有しています。	お子さんの様子を保護者と職員でできるだけ伝え合いながら個別支援計画の見直しをしていきます。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4	活動の内容はさまざまな要素を取り入れながら支援をしています。	今後も様々な視点を取り入れながら支援をおこなっていきます。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	4	活動内容によっては、お子さん自身がやりたいことを決めて活動しています。その際にはお子さんが自分自身で選ぶ機会を設けています。	今後も自分のことは自分で決めていく機会を取り入れておこなっていきます。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	サービス担当者会議が開催された場合には、相談員・児童発達支援管理責任者等、お子さんの支援にあたる職員が参加しています。	お子さんの様子が伝えられるように職員間で共有し、サービス担当者会議に参加しています。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	お子さんを取り巻く関係機関と情報共有をして連携をしています。	今後もお子さんを中心に関係機関と同じ方向を見ながら情報共有していきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	基本的には保護者から学校の予定等は伺っています。忘れてしまう保護者には知らせてもらうように促しています。	今後も学校の予定については保護者を介して情報共有していきます。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	はじめて利用する前に保護者の同意のもと就学前に通っていた機関と情報共有をしています。	お子さんの育ちや環境を理解した上で事業所としての受け入れ態勢を整えていきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	必要があれば情報を提供しますが、基本的には学校が情報提供しています。保護者へは事業所への情報共有が出来ることを伝え必要に応じて対応することとしています。	今後も必要に応じて情報提供をしていきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	発達センターとはお子さんが利用していた場合に情報共有をしています。	必要があれば連携をしていきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	地域の子ども図書館や公園等で他のお子さんとの交流する機会があります。	外出の機会を設け、地域のお子さんたちと交流をしていきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	放課後等デイサービス連絡会があり参加しています。市内の事業所と情報交換をしています。	できるだけ連絡会に参加し、他事業所と情報交換をおこなっていきます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	連絡帳やお迎え時、送迎時にお子さんの様子を伝えていきます。	保護者の方の気持ちを汲み取りながらお子さんを支援できるように情報を伝えあっていきます。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	個別療育の場面では、お子さんの様子やどのように家庭の中で対応していくのかを直接専門職より伝えていきます。	今後も家庭と連携しながらお子さんの発達を促していきます。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	事前の見学や契約時に説明をおこなっています。	わかりづらいこともありますが、できるだけ丁寧に伝えていきます。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	個別療育や面談、モニタリングの際に、保護者の思いや望むお子さんの姿を話し合いながらおこなっています。	保護者の思いを聞く機会をできるだけ多くし、その都度保護者の思いを理解しながら一緒に考えていきます。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4	個別支援計画の説明をおこない、保護者からの同意を得ています。	今後も個別支援計画の説明と同意を頂くように対応していきます。
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	個別支援計画の説明とモニタリング等年2回面談を設けています。また、連絡帳で悩み等を記入していただいたり、適宜面談をしています。	保護者の困りごとなどを受け止めていきます。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4		保護者からの要望もあり、年1回保護者会を開催しています。他の学校の保護者との交流ができ、他の学校の様子がかかえる良い機会になっています。	学校行事が多いため、保護者と一緒に活動は設けていませんが、今後は検討していきます
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		保護者からの相談があった時は、上司に相談し必要に応じて面談を設けています。	今後もお子さんだけでなく、保護者の方のお気持ちも受け止めていきます。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4		必要に応じてお知らせを作成し配布しています。	今後できるだけわかりやすくお知らせしていきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人のファイルは書庫に保管され、鍵がかかるようになっています。電子文書も鍵のかかる場所に保管しています。	今後も個人情報の取り扱いには細心の注意を払って対応していきます。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		お子さんにはそれぞれの課題に合わせた配慮をしています。保護者に対しても必要に応じて文書でお渡ししています。	それぞれに合わせた情報伝達の工夫をしております。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4		年1回ですが、法人のお祭りの際には、地域の方も参加できるお祭りを開催しています。	今後も地域の方に見守られながら事業運営をしております。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		職員間ではマニュアルを活用して対応しています。保護者に対しては周知していません。法人内で毎月1回火災による避難訓練を実施しています。年1回は地震対応の訓練、風水害の訓練を実施しています。お子さんは利用日の場合は参加しています。	それぞれのマニュアル作成については保護者へ情報として周知できるように対応していきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		災害時の業務継続計画を基に訓練を行っています	業務継続訓練を実施し、対応をしていきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4		アセスメント時や随時必要なことは保護者へ聞き取り確認しています。	服薬やてんかん等の対応については、保護者と十分に確認をし対応していきます。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		医師の指示書を基に対応しています。また、食物アレルギー対応マニュアルをもとに支援者と栄養士、調理員と確認をおこなっています	食物アレルギーに関しては細心の注意を払い、全職員で確認しながら対応していきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		安全計画の項目に合わせて職員間で周知し、必要な訓練や研修等をおこなっています	お子さんの安全を守るためのマニュアルとして今後も計画的に研修等を実施していきます
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		保護者に安全計画については細かく説明してはませんが、項目ごとに説明をする機会を持つようにしています。	今後も丁寧に説明をしていきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハットや事故報告書を作成し、ジオクの原因、今後の対応等についてその都度検討し記録しています。	今後も過去のヒヤリハットや事故報告書を基に職員間で内容の検討や気づきを促し、自分事に置き換えて考えていく機会を作っていきます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		虐待に関する研修や適切な支援を職員が振り返り客観的に捉えられるように話し合っています。	必要な研修の機会を確保し、職員間で話し合う機会をできるだけ設けていきます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		ひとつひとつの行動が身体拘束になっているのかを話し合っています。適切な支援が何なのかを話し合っています。個別支援計画には手つなぎも含めて身体拘束にあたることを記載し、保護者へ説明しています。	今後も継続して話し合いや研修をとりいれてまいります。また、保護者へも丁寧に説明します。	